

令和7年度 青野原駐屯地盆踊りにおける東播支部の協力活動

～ 駐屯地夏のひととき ～

令和7年8月6日18時より、青野原駐屯地内の基本グラウンドにて盆踊りが開催された。

兵庫県隊友会東播支部からは、石田支部長以下8名（池田副支部長、細貝事務局長、空中理事役、永野理事役。永見会員、大藤会員（太鼓支援）、小田口会員（家族会会員兼務））が参加し、支部長を除く4名は来賓受付業務を主担任として支援しつつ盆踊りに参加した。

東播支部の会員の多数は青野原駐屯地勤務経験者であるため、駐屯地のOB会（青桜会）にも所属している会員が多く、今回の受付業務はOB会に求められた任務であった。

例年同様に、参加者は駐屯地所属隊員、隊員家族、踊り支援者である踊り連、近隣市町の首長、市議会議員、有識者、各団体の代表など多岐にわたり、厳しい暑さの中、現職隊員を含めて約500名以上が参加した。

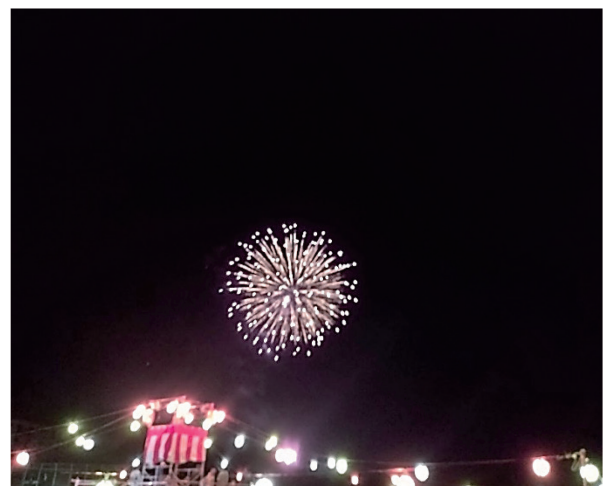
櫓を囲み盆踊りをする隊員・家族の面々



会場は中央に櫓があり、それを取り囲むように各中隊等のテントが配置され、それぞれのテントに隊員の家族がくつろげるよう工夫が施されていた。北側広場には 17 の屋台及びキッチンカーが並び、冷たいかき氷やお酒の他、お腹を満たす調理品が販売され、列をなして買い求める様子が祭の賑わいを一層引き立てていた。

18 時には、第 8 高射特科群長兼ねて青野原駐屯地司令小林 1 佐の挨拶を皮切りに、各部隊が順番に踊りの輪に加わり盆踊りが開始された。今年は、8 月の異動で青野原駐屯地業務隊長に着任された横山 2 佐（青野原駐屯地業務隊初の女性隊長）が浴衣姿で来賓にご挨拶される姿が印象的であった。

夜空に輝く 打ち上げ花火



20 時半を過ぎた頃、北東の夜空に花火が上げられ、会場の全員が食い入るように見上げていた。決して大玉の花火ではないものの、約 100 発の花火が会場近くから打ち上げられたため迫力があり、参加者は毎年楽しみにしている花火を今年も堪能することができた。

そして最後に、駐屯地協力団体である駐屯地防衛協会の前連合会会長小林様の協賛により準備された沢山のお餅が、櫓の上から駐屯地司令をはじめ各部隊長等によって撒かれ、盆踊りは盛況のうちに終了した。

この餅まきは、青野原駐屯地の盆踊りにおける恒例行事として徐々に認知度が高まりつつあり、年々櫓を囲む人の数が増えている。今年は子供たちを櫓の近くに集め、大人はその後方で餅を拾えるよう工夫されていた。

恒例の餅まきに熱狂する隊員・家族の皆様



近年、青野原駐屯地の訓練状況は厳しさを増しており（自衛隊全体として訓練が過密化している状況である）、その中で現職隊員が家族と楽しめる数少ない行事である盆踊りは貴重な機会である。来年は駐屯地創立 50 周年の節目の年を迎えるにあたり、記念行事を盛大に行うことで、盆踊りの花火に充てる予算が確保できるか懸念されているとの声も聞かれた。

そのような状況を目の当たりにし、我々 O B の協力団体として、隊員とその家族が楽しめる行事に対してどのような支援が可能かを自問しながら会場を後にした。

事務局長 細貝 寛徳